



# かわせみ通信

※野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます↓

## 野外施設自然情報

県立自然環境保全センター 生き物

検索



自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にいろいろふれることができます。

このかわせみ通信では、主に1~3月に記録された野外施設の自然の情報を掲載しています。

### <最近の話題>

#### ●犯人はだれだ!?

1月、自然観察園の観察路よりも奥の非公開エリアで、不気味なものが見つかりました。なんと、ササの枝に小鳥の死体がひっかかっていたのです!小鳥はシジュウカラで、ササが枝分かれした又の部分に首を挟むようにひっかかされていました。いったいだれの仕業なのか…。

考えられる犯人はモズ。体長約20cm、市街地でも見られる留鳥(1年中いる鳥)です。小さい体ながらタカのようなカギ状のくちばしを持ち、昆虫やカエル、トカゲ、ときには小鳥やネズミもとらえます。木の又、トゲ、有刺鉄線などに獲物を突き刺しておく習性があり、モズの早贄(はやにえ)と呼ばれています。モズ特有でよく知られた習性ですが、その理由はいまだにはっきりと分かっていません。冬に備えての食糧の貯蔵であるとか、餌がとれすぎたため、縄張りの目印、刺して食べていた食べ残しなどいろいろな説があります。今回見つかったシジュウカラは腹の部分に食べられたようなあとがありました。枝に挟んで食事をしている途中に何等かの理由で獲物を残して飛び立ってしまったのでしょうか。



ササの枝に挟まったシジュウカラ



モズ(メス)

### <気になる生き物>

#### ●冬に夏鳥?

1、2月に来園者の方からサンショウクイとイワツバメの目撃情報が寄せられました。どちらも夏の渡り鳥で、春に東南アジアから渡ってきて日本で繁殖し、秋には越冬のためにまた東南アジアに渡って行きます。「神奈川の鳥 2006-10 (日本野鳥の会神奈川支部発行)」によると、イワツバメは冬にも確認されていますが、サンショウクイの確認は4月から10月のみでした。近年、亜種のリュウキュウサンショウクイが北上し、保全センターでも見られるようになるなどサンショウクイの生息状況に変化が起きています。その原因には地球温暖化の影響が考えられています。日頃から周囲の自然に目を向けていると、いろいろな変化に気が付くことがあります。みなさんも自然観察園で発見したこと、気づいたことがあったらぜひ教えてください。

## ●キツネ

2月に非公開エリアに設置したセンサーカメラでキツネの姿が確認されました。赤茶色の体にふさふさとした立派な尾が特徴のキツネ。イヌ科で、平地から低山の林にすむ動物です。山麓から都市近郊まで幅広い環境に適応していますが、夜行性ということもあり実際に出会うことはめったにありません。現在神奈川県では準絶滅危惧種（生息環境の変化によって絶滅危惧に移行する可能性のある種）に指定されています。

キツネはアケビやヤマブドウなどの果実を食べることもありますが、主にはネズミやノウサギなどの小動物を食べ、生態系のバランスを保つ存在です。ニワトリなどの家畜を襲うという理由でキツネを駆除しすぎたことでネズミが増え、樹木に被害が出たという話があるほどです。

さまざまな生き物をエサとして食べ、子育てのときには迷路のように複雑な巣穴を掘るキツネが生きていくためには、豊かな自然環境が必要だということがわかりますが、開発などによってキツネの生息に適した環境が減少していることが、準絶滅危惧種に指定されている理由のひとつです。また、特定外来生物であるアライグマがキツネと同じような環境を好むため、キツネの生息環境が奪われているということも考えられています。アライグマは保全センターやその周辺でも確認されていて、影響が心配ですが、豊かな自然の証ともいえるキツネの姿を見ることができました。元気に生きていってほしいと思います。



カメラの前を横切るキツネ

## ●ハンノキの花の作戦

自然観察園の谷戸にはハンノキがたくさん生えています。自然観察園を整備した約30年前に植栽し大きく育ったものと、新たに生えてきたものがあります。ハンノキは明るく開けた湿地に最初に生えて林を形成する、自然観察園を代表する樹木です。2月下旬頃、ハンノキが開花の時期を迎えました。木道の上では、落ちた雄花から黄色い花粉がこぼれているのが見られました。

一般的な花は1つの花に雄しべと雌しべがありますが、ハンノキは、雄しべが機能している雄花と、雌しべが機能している雌花が別々につく雌雄異花の植物です。枝の途中にある赤い小さな方が雌花、枝の先端についた長い房状の方が雄花です。同じ木の雌花と雄花は同時には咲きません。雄花の方が先に成熟し花粉を飛ばします。これがハンノキの作戦です。雄花と雌花の時期をずらすことで、別の木の花と受粉し、遺伝的な多様性を高めようとしているのです。遺伝的に異なるタイプが多ければ、病気など、その環境に変化が起こったときに生き残る可能性が高くなるからです。きれいな花弁があるわけではなく、目立たない花にも興味深い生態があります。



雌花(左)と雄花(右) 雄花は咲き終わり



落ちた雄花のまわりには黄色い花粉

### 【ミニ観察会に参加しませんか？】

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。

\*毎週日曜日・祝日の13:00スタート

\*申込不要・参加費無料

\*当日の13:00に本館玄関前に集合（所要時間は約2時間）

↓詳しくはHPで!



# 傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます↓

神奈川県 自然保護課 野生動物救護

検索



自然環境保全センター（旧自然保護センター）の傷病鳥獣の救護業務は、主に人間の活動が原因で傷ついて救護された県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を中心に昭和53年から行っています。

この「かわせみ通信」では、県民の皆様により持ち込まれた救護動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

## <平成29年1月～3月の受け入れ実績報告>

### 受付件数の多かった上位種

1位	タヌキ	12件
2位	ヒヨドリ	6件
2位	メジロ	6件
4位	キジバト	4件
5位	ムクドリ	3件
5位	ツグミ	3件

### 人間が関係する主な救護原因

鳥類		哺乳類	
窓ガラスなどへの衝突	13件	疥癬症(かいせんしょう)	9件
ネコなどに襲われる	8件	交通事故	1件
交通事故	6件	有刺鉄線に絡む	1件
ネズミ捕りなどの粘着剤にかかる	3件	ネコなどに襲われる	1件
釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	2件		

## <平成28年度 ヒナの救護実績報告>

438羽の野鳥を受け入れしました。野鳥と一言でいっても半分以上はヒナで、その多くは4月から8月頃に集中して持ち込まれます。（図1）

これから出会うかもしれないヒナのことについて、平成28年度の実績も含めてご紹介します。

（※各年度の全体の救護実績については、HPをご覧ください。）

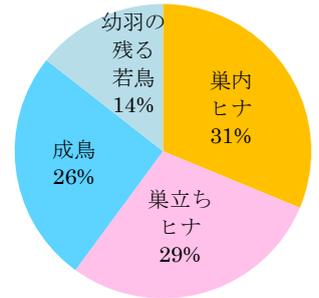


図1 鳥類の受け入れした内訳

### ●ヒナと聞いてイメージするのは？（※例:下の写真は、すべてスズメです！）

1	2	3
特徴	特徴	特徴
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 赤裸、地肌が見えている</li> <li>* 目が開いていないこともある</li> <li>* しっかり立てない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 羽がほぼ生えそろっている</li> <li>* 羽ばたいたりするが、うまく飛べずにいることがある</li> <li>* くちばしのまわりが白や黄色のことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 羽は生えそろっている</li> <li>* 羽色がはっきりしている</li> <li>* くちばしのまわりの白や黄色がなくなっている</li> </ul>

③以外はヒナです。①は、生まれてまもないヒナで巣の中にいる『巣内ヒナ』と言います。②は、生まれて約14日の巣立ち直後のヒナで巣から外に出て飛ぶ練習や危険から身を守る方法など、たくさんのことを親鳥から学んでいる時期の『巣立ちヒナ』と言います。③はオトナの鳥で『成鳥』です。春から夏にかけて、「鳥が飛べないでいる。ケガをしているのではないかな？」とのお問合せが多く寄せられますが、②の時期の可能性が高いので救護する前によく観察してみましょう。出血や骨折などケガをしていないようでしたら、近くで親鳥が心配しています。その場を離れましょう。①だった場合は、近くに巣がないか探して巣に戻すか代用の巣を用意して見守りましょう。（代用の巣については、HPで紹介しています）

## ●ヒナの持ち込まれる主な理由は成長過程で違う！？

巣内ヒナの場合は、巣からの落下や巣があることに気がつかずに巣の撤去をしてしまったのが多いのに対して巣立ちヒナの場合は、巣から外に出て活動することから、誤認保護や窓ガラスなどへの衝突が多いことがわかります。（図2）

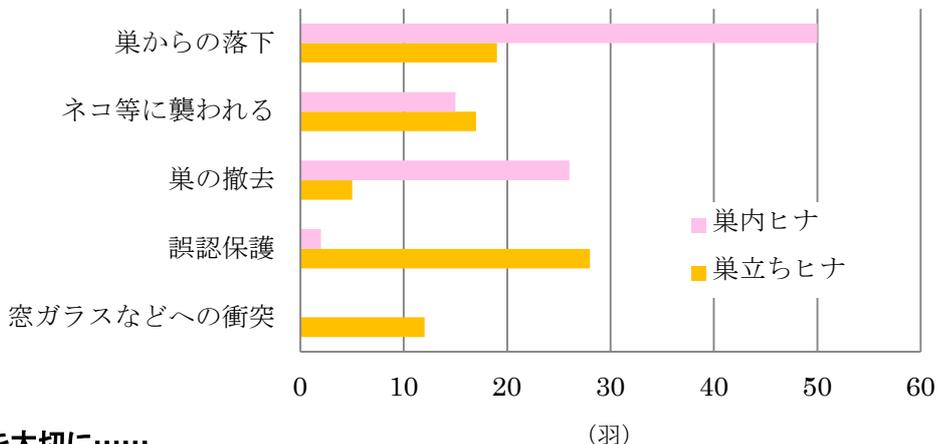


図2 ヒナの年齢別救護原因

## ●1羽でも多く助けたい！その気持ちを大切に……。

主に人間の活動が原因でケガや病気をした野生動物は、少しでも多く助けたいのですが、図3のように多くのヒナが亡くなっていることがわかります。いったいどうしてでしょうか。

窓ガラスなどへの衝突や巣からの落下は、体への衝撃が影響して、内出血や骨折などが多くみられます。また、ネコ等に襲われると口内や爪からの細菌が感染を起こすので、手当てが遅れると助けるのが困難です。次に誤認保護や巣の撤去は、病気もケガもしていない元気なヒナが多いのですが、自然界とは違うエサを食べなかったり、受け付け前に間違ったエサを与えたために消化不良を起こしたり、搬送や環境の変化のストレスなどによって亡くなることが多く、親鳥に代わって人間がヒナを育てるのは、思っている以上に難しいです。

特に誤認保護は、私たちが気をつけることで減らすことのできる救護原因のひとつです。人間が原因で救護されるヒナが、1羽でも減ることを願って……。

## ●その優しさが法律違反になるかも！？

毎年、「ヒナを保護したけど、どうしたら良いか」という相談を受けます。野生動物は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（鳥獣保護管理法）により守られています。たとえ助けることが理由でも国や都道府県、市町村の許可なく捕まえて飼育することは本来、『法律違反』になります。優しい気持ちで保護したつもりが、違法飼育に間違われた！？ということにならないためにも、救護する前にご相談下さい。また、救護対象でない種類や定休日もあります。まずは、HPでご確認下さい。

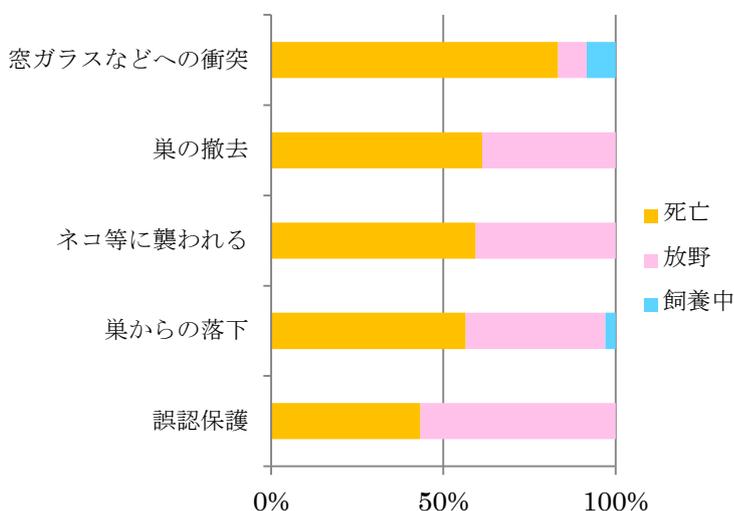


図3 受け付け後の状況

### 【お知らせ】

- 傷病鳥獣受入れ定休日を正式に実施いたします。

定休日：毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）、年末年始（12月28日から翌年1月4日）

- 傷病鳥獣救護に関するお問合せ番号が変更になりました。

お問合せ番号：046-248-0500

受付時間：9時00分から16時30分

ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。